

第2節 豊かな人生を支える福祉社会の実現

第1項 健康に暮らすことができるようにします

めざしたい将来像:

自らの健康に関心を持ち、社会参加することを通して、一人ひとりが目的を持った生きがいのある暮らしを生み出します。

指標

生きがい感を持っている人の割合

(1) 指標の説明

生涯にわたり、その意欲や能力に応じて地域活動や就労等の社会参加の機会をもち、年齢や身体状況に係わりなく、いつでも心のほりや生きがいを持ち続ける人を把握するため、生きがい感を持っている人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q3 あなたは日頃、生活の中で生きがいを感じていますか。(1つに○)

- | | | |
|------------|-------------|--------------|
| 1 大変感じている | 3 ある程度感じている | 5 ほとんど感じていない |
| 2 かなり感じている | 4 あまり感じていない | |

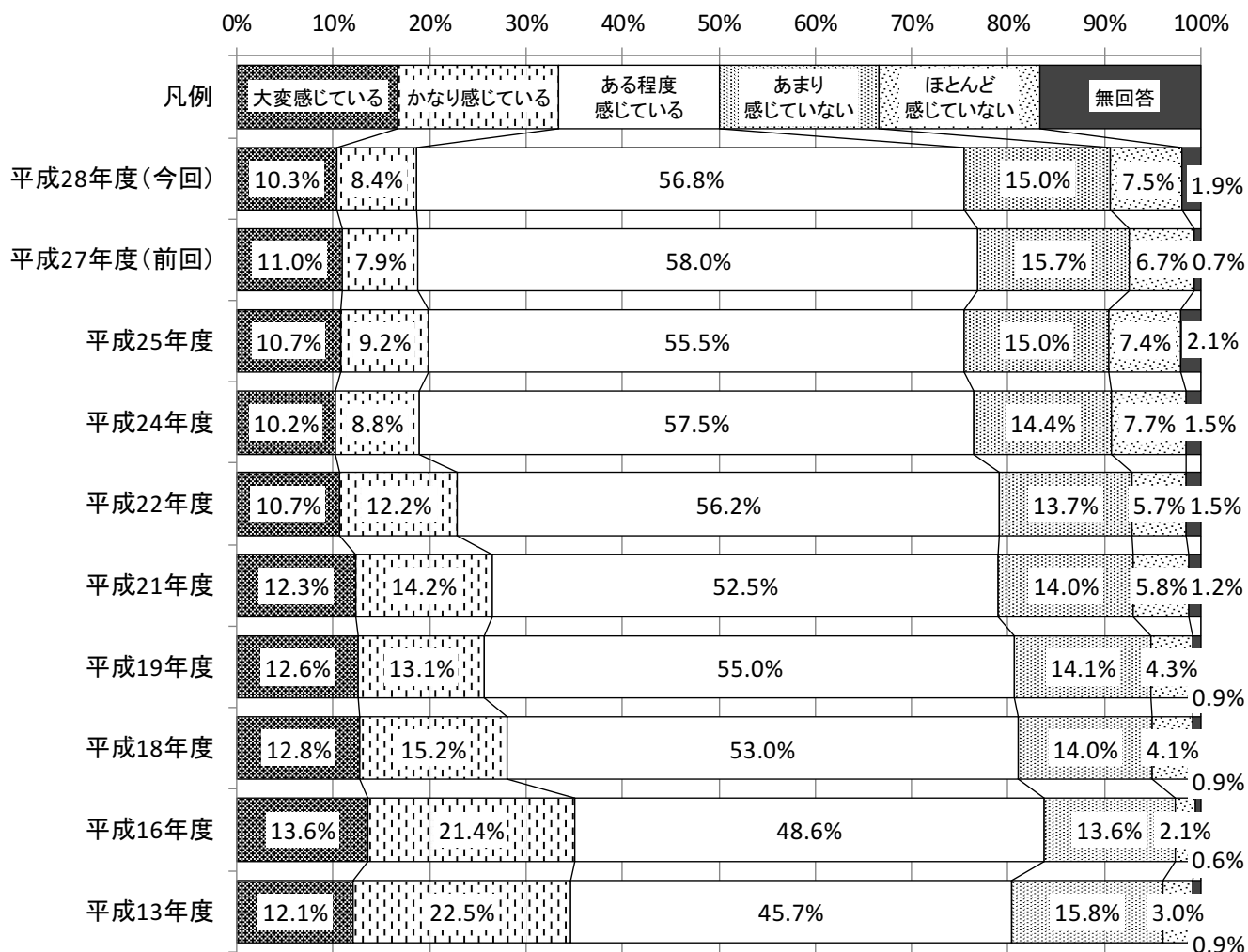
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
大変感じている	12.1%	13.6%	12.8%	12.6%	12.3%	10.7%	10.2%	10.7%	11.0%	10.3%
かなり感じている	22.5%	21.4%	15.2%	13.1%	14.2%	12.2%	8.8%	9.2%	7.9%	8.4%
ある程度感じている	45.7%	48.6%	53.0%	55.0%	52.5%	56.2%	57.5%	55.5%	58.0%	56.8%
計	80.3%	83.6%	81.0%	80.7%	79.0%	79.1%	76.5%	75.4%	76.9%	75.5%

(4) 指標の分析

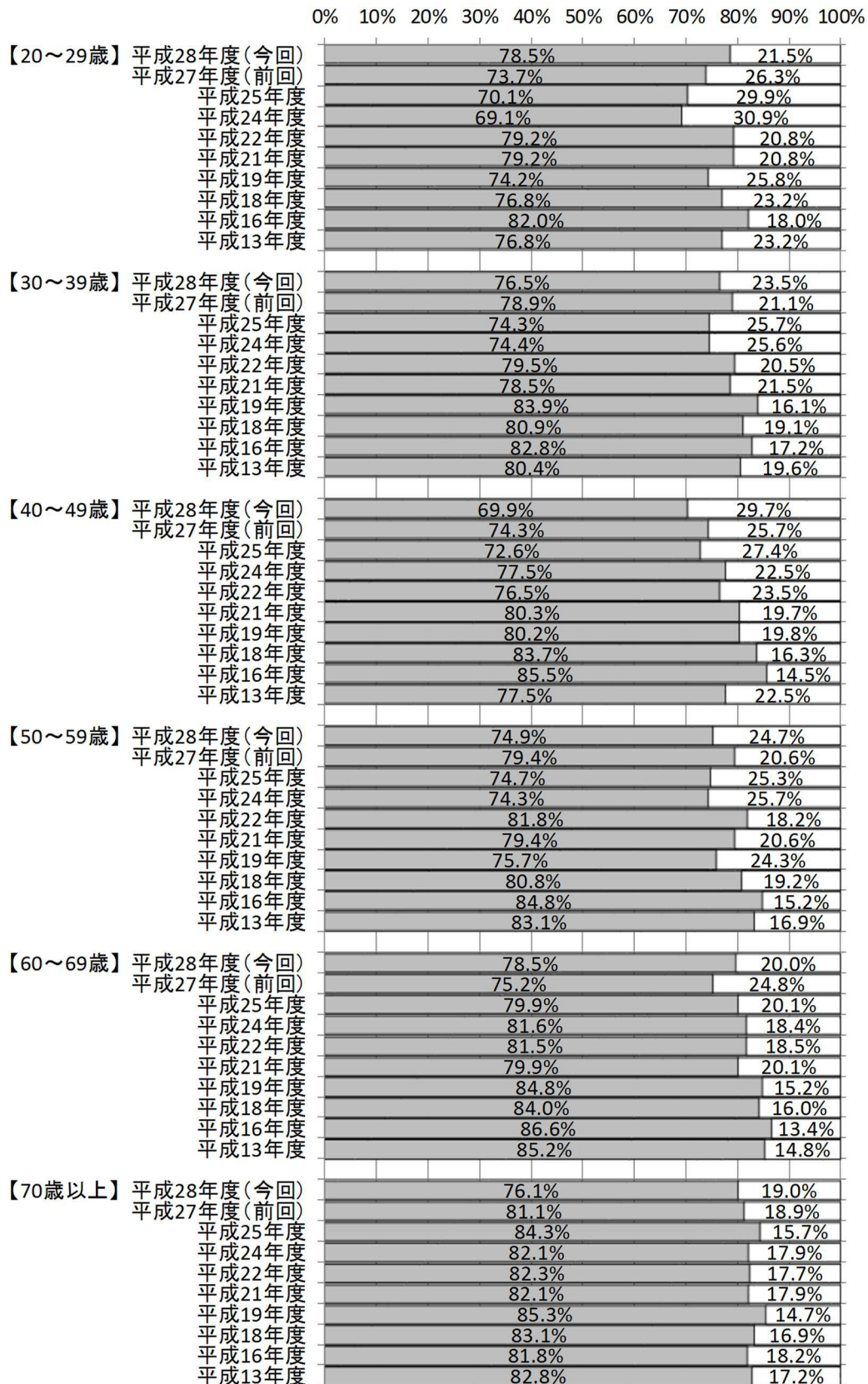
☆何らかの生きがいを感じている人は75.5%となり、4分の3近くを占めています。

日頃の生活の中で生きがいを感じているかどうかについてみると、“大変感じている”、“かなり感じている”、“ある程度感じている”をあわせた生きがいを感じている人の割合は前回調査より、やや低下していますが、75.5%を占めています。



年齢別にみると、各年齢層とも生きがい感を持っている人の割合が高く、40歳代を除く年齢層で7割を超えています。
 “40～49歳”も69.9%を占めています。

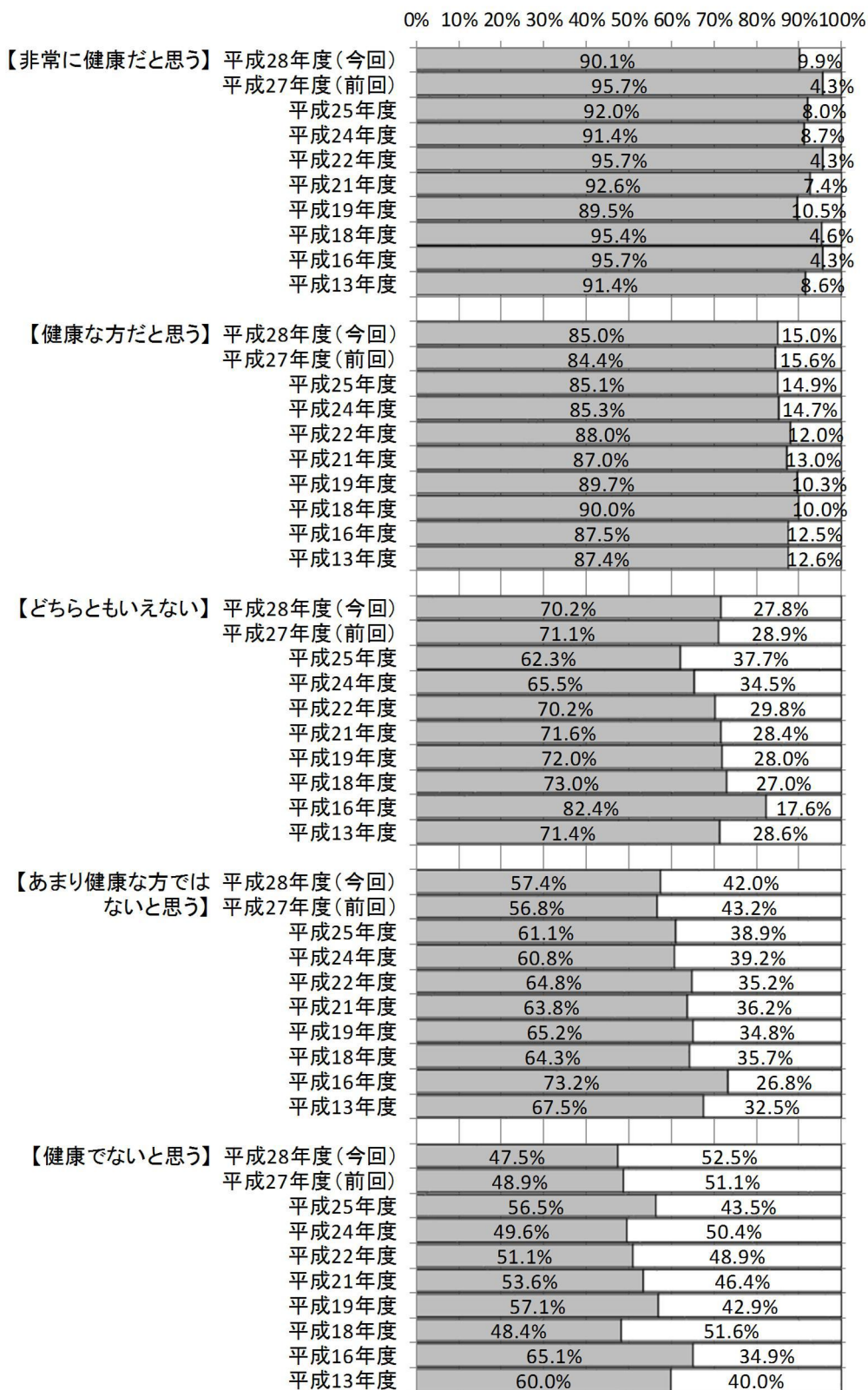
【生きがい感×年齢】



- “大変感じている”と“かなり感じている”と“ある程度感じている”の合計比率
- “あまり感じていない”と“ほとんど感じていない”の合計比率

本人の健康感別にみると、非常に健康だと思う人の90.1%が生きがいを感じています。一方で、健康でないとする人のうち、生きがいを感じているのは47.5%にとどまっており、前回調査と同様に健康状況に比例して生きがい感が高まる傾向がうかがえます。

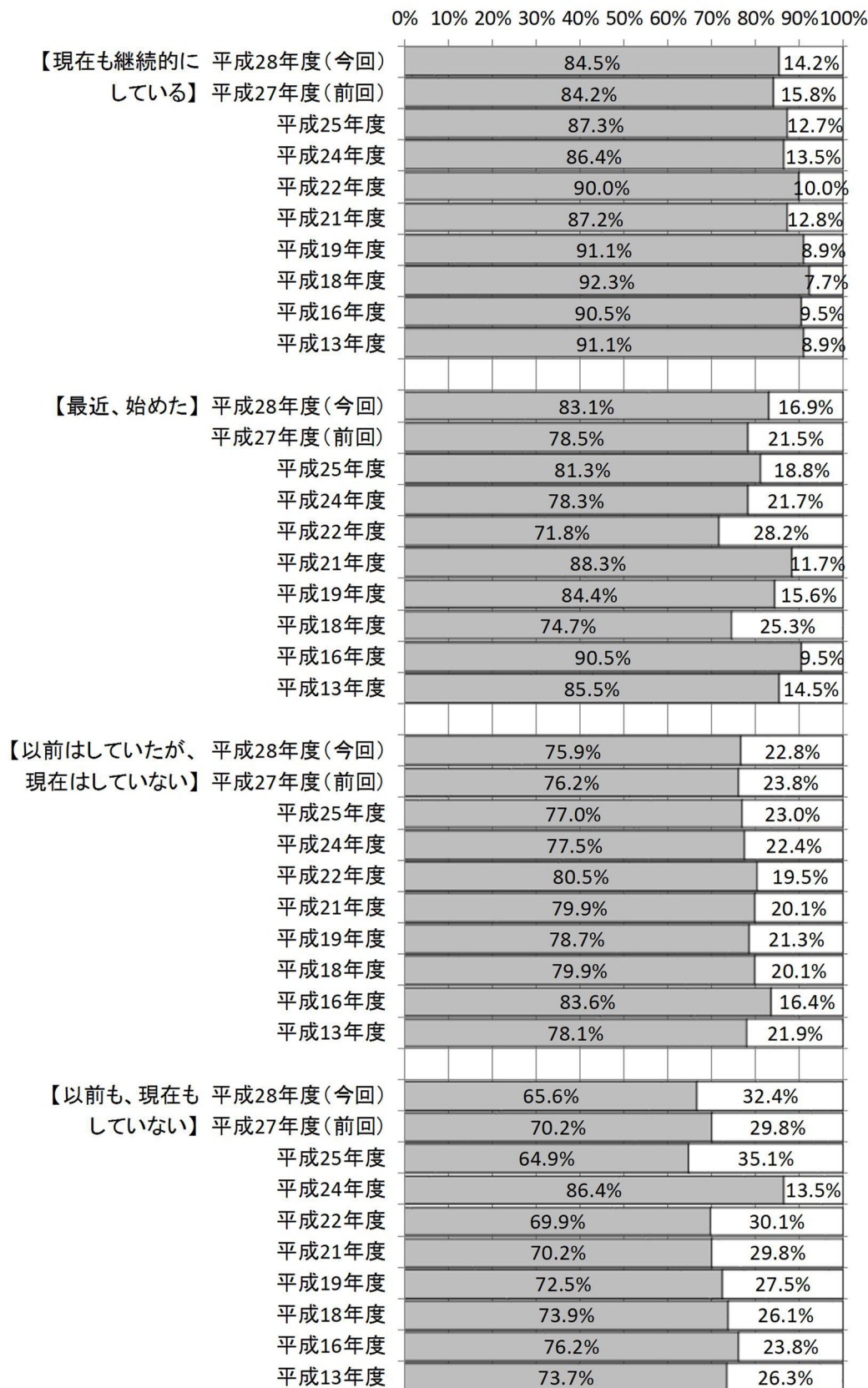
【生きがい感×本人の健康感】



■ “大変感じている”と“かなり感じている”と“ある程度感じている”の合計比率
 □ “あまり感じていない”と“ほとんど感じていない”の合計比率

スポーツの実施状況別でみると、現在も継続的にスポーツをしている人のうち、生きがいを感じているのは84.5%に達しています。一方、以前も現在もスポーツをしていない人の生きがい感は65.6%にとどまっています。

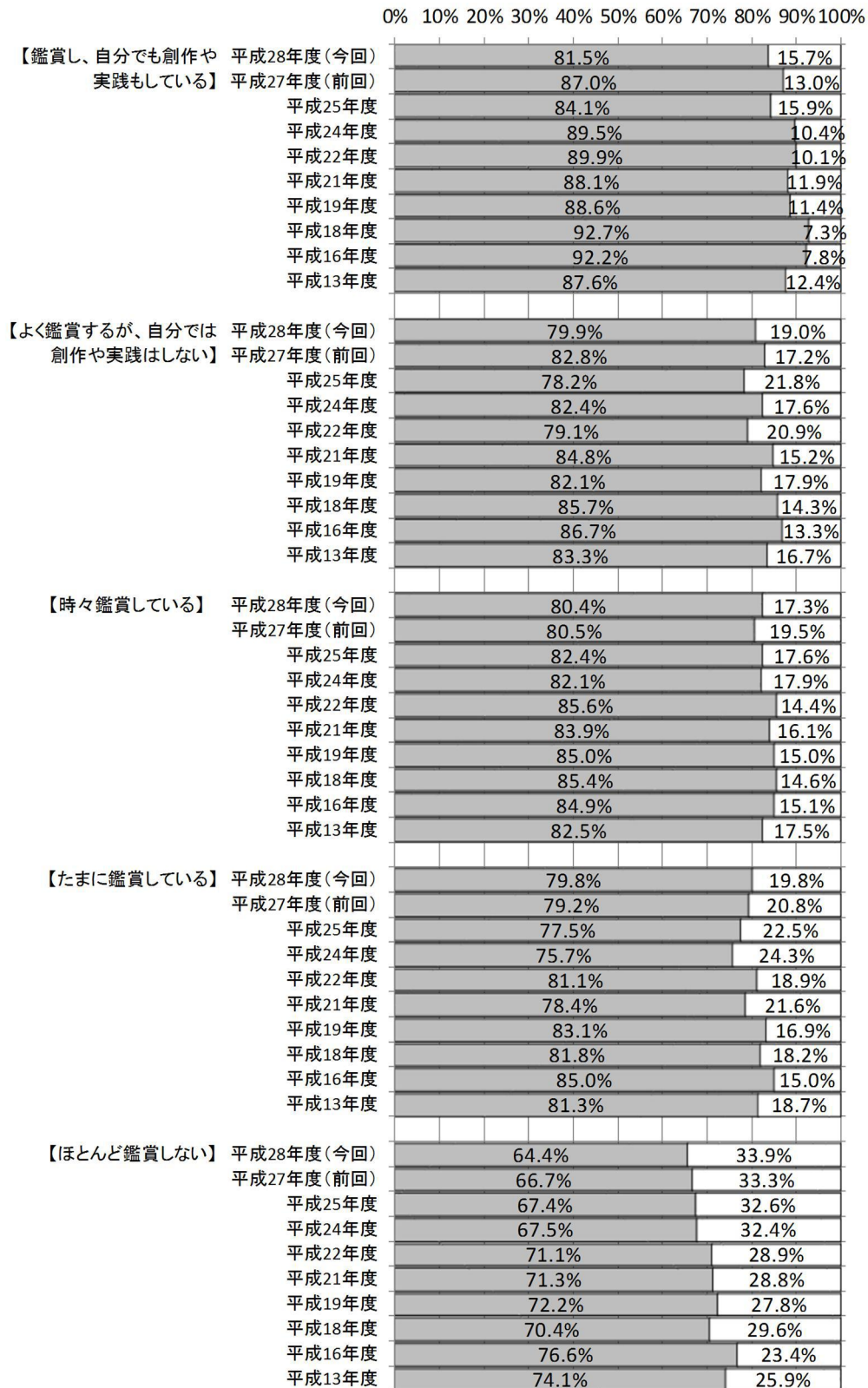
【生きがい感×スポーツの実施状況】



- “大変感じている”と“かなり感じている”と“ある程度感じている”の合計比率
- “あまり感じていない”と“ほとんど感じていない”の合計比率

芸術文化の実施状況別でみると、自ら実践している人の生きがい感は 81.5%に達していますが、ほとんど鑑賞していない人の生きがい感は 64.4%にとどまっています。スポーツと同様に、自ら実践している人の生きがい感が高くなっています。

【生きがい感×芸術文化の実施状況】



■ “大変感じている”と“かなり感じている”と“ある程度感じている”の合計比率
□ “あまり感じていない”と“ほとんど感じていない”の合計比率

指標

本人が健康であると思う人の割合

(1) 指標の説明

健康は、あらゆる社会活動と市民生活の基盤であり、病気や障害を持つことになっても、その人の置かれた状況に応じて健康な生活が送れることが必要となります。そこで、本人が健康であると思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度(認知)」

Q4 あなたは今、健康だと思いますか。(1つに○)

- | | | |
|-------------|-------------------|------------|
| 1 非常に健康だと思う | 3 どちらとも言えない | 5 健康でないと思う |
| 2 健康なほうだと思う | 4 あまり健康なほうではないと思う | |

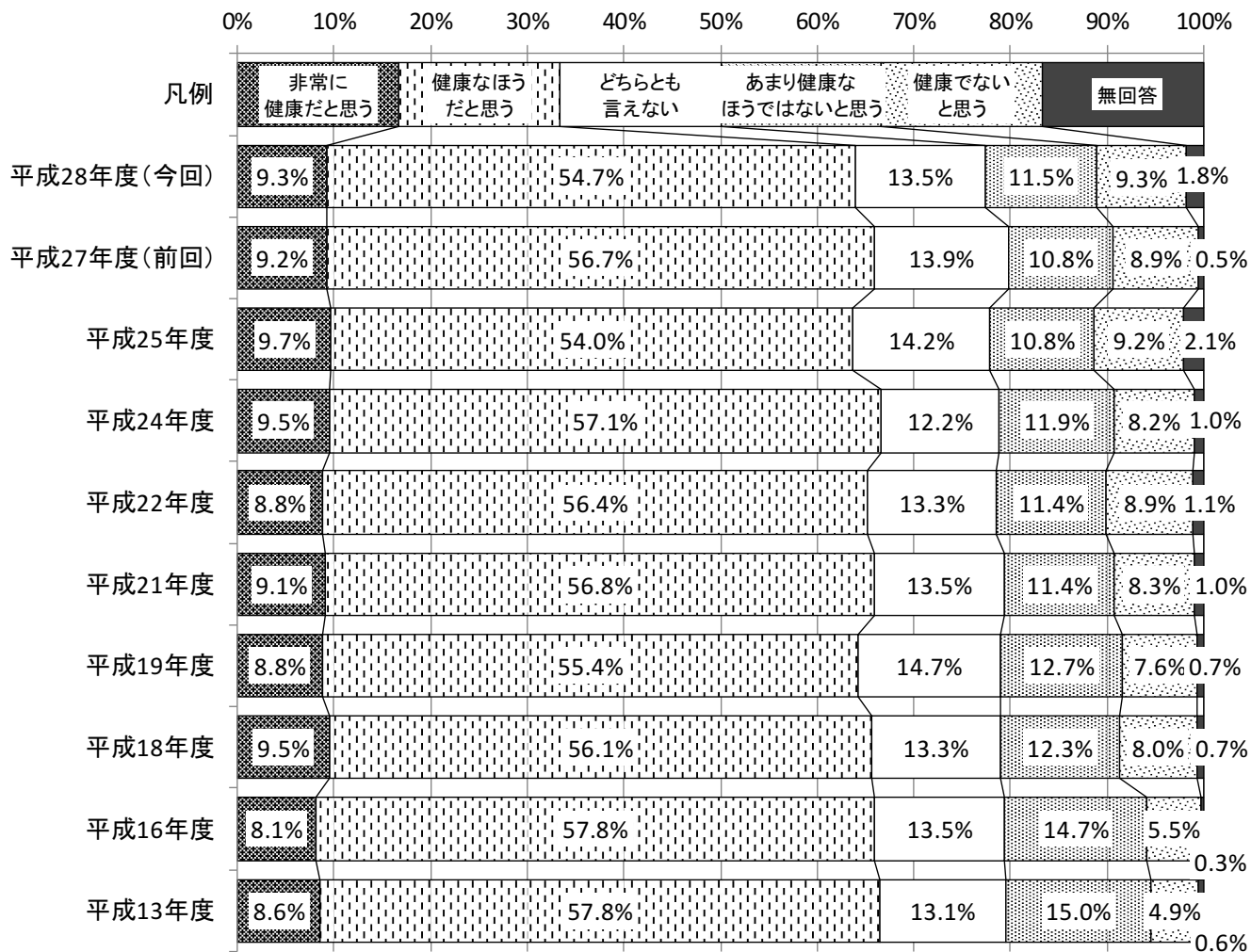
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度
非常に健康だと思う	8.6%	8.1%	9.5%	8.8%	9.1%	8.8%	9.5%	9.7%	9.2%	9.3%
健康な方だと思う	57.8%	57.8%	56.1%	55.4%	56.8%	56.4%	57.1%	54.0%	56.7%	54.7%
計	66.4%	65.9%	65.7%	64.3%	65.9%	65.2%	66.6%	63.6%	65.9%	63.9%

(4) 指標の分析

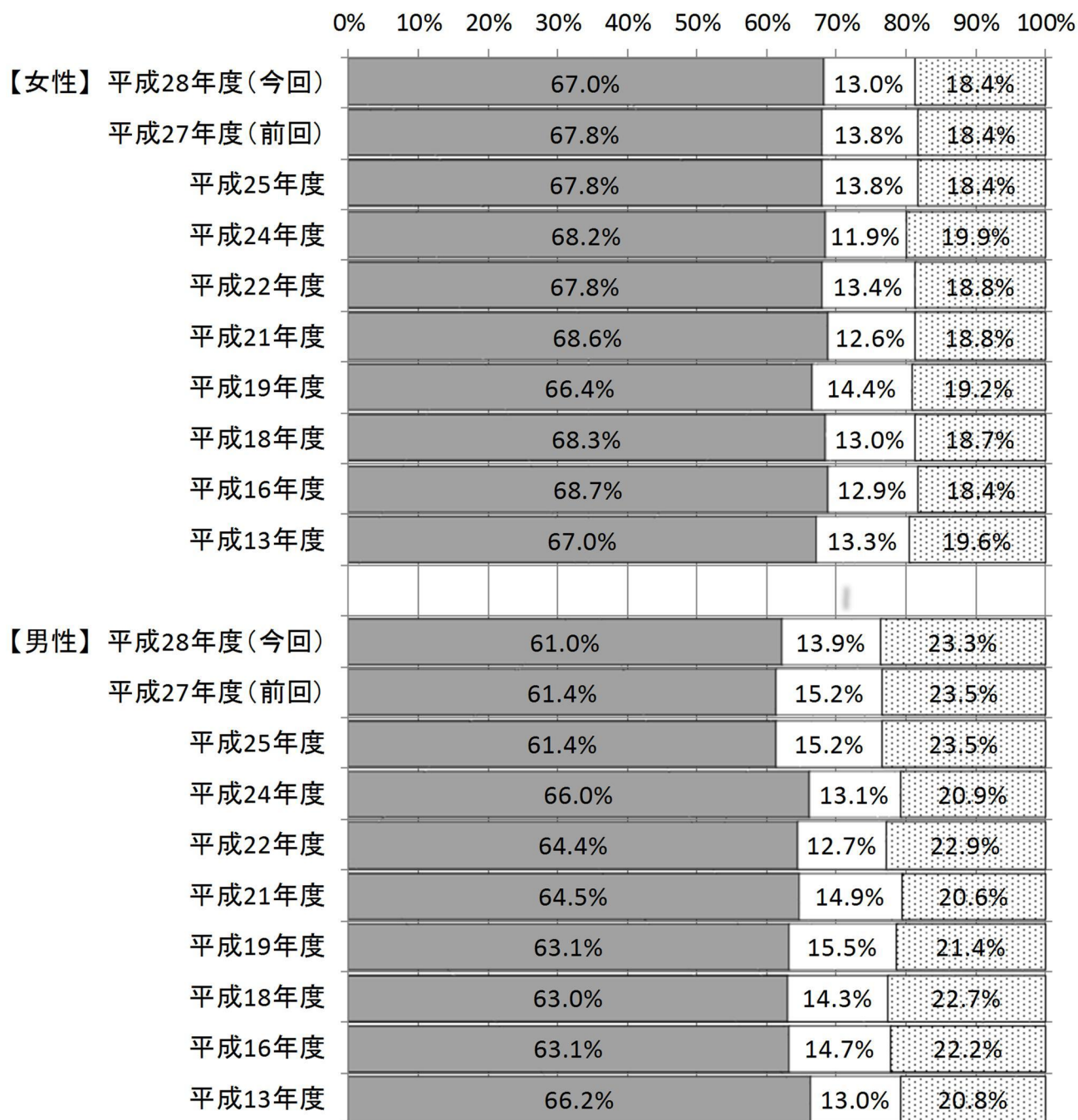
☆「健康である」と思う人は、市民の約3分の2を占めています。

主観的な自身の健康に対する評価をみると、54.7%と半数以上が“健康なほうだと思う”と回答しており、“非常に健康だと思う”(9.3%)とあわせると、64.0%が自分を健康だと考えています。



性別で見ると、“女性”67.0%、“男性”61.0%であり、“女性”の方が健康であると思う人の割合が高くなっています。

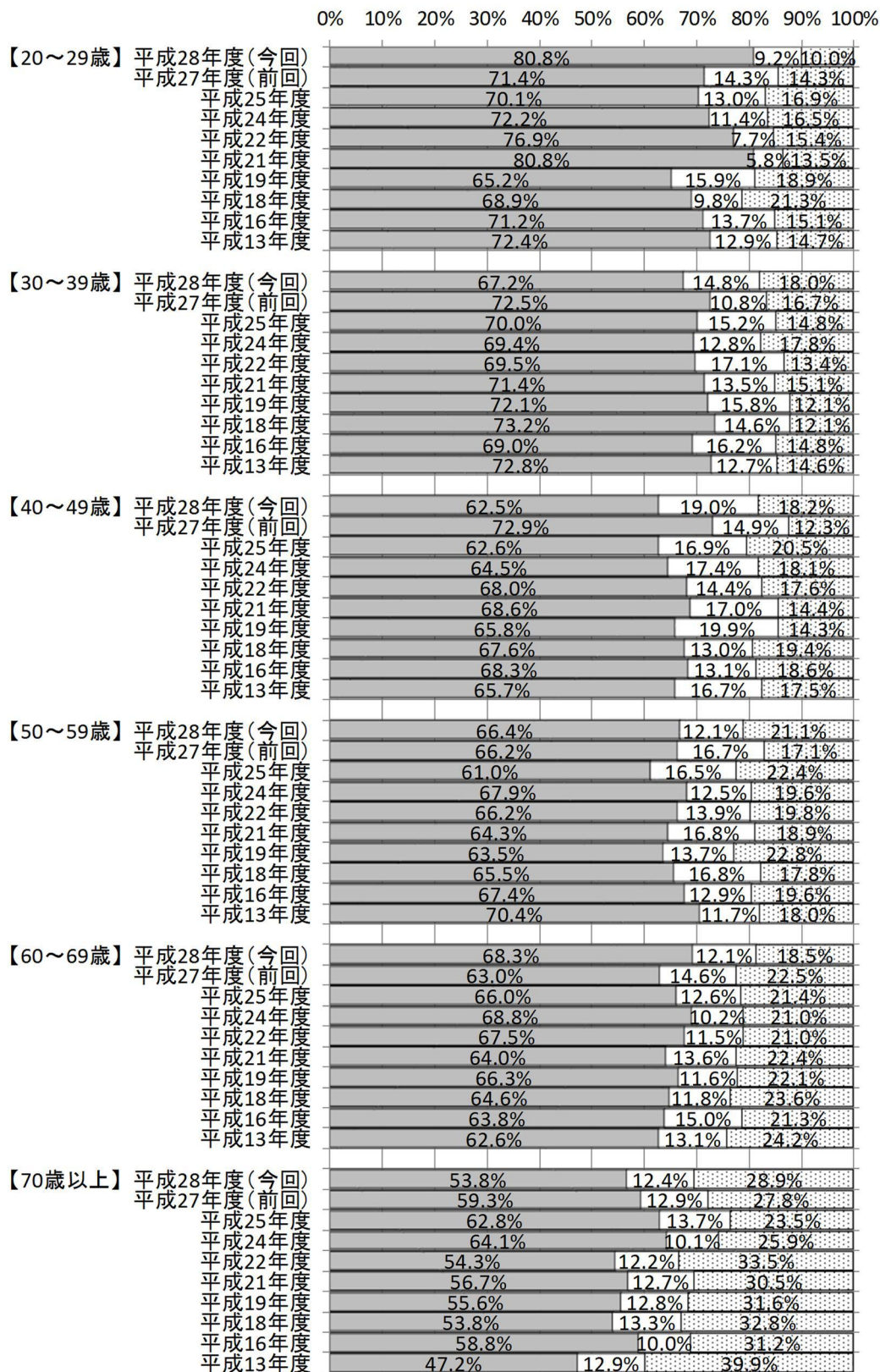
【健康感×性別】



- “非常に健康だと思う”と“健康なほうだと思う”の合計比率
- “どちらともいえない”の比率
- ▨ “あまり健康なほうではないと思う”と“健康でないと思う”の合計比率

年齢別でみると、特に、“20～29歳”は8割を超えています。他の年齢層も60%を超えていますが、“70歳以上”は50%台となっています。平成24年度の64.1%をピークに、年々、減少しています。

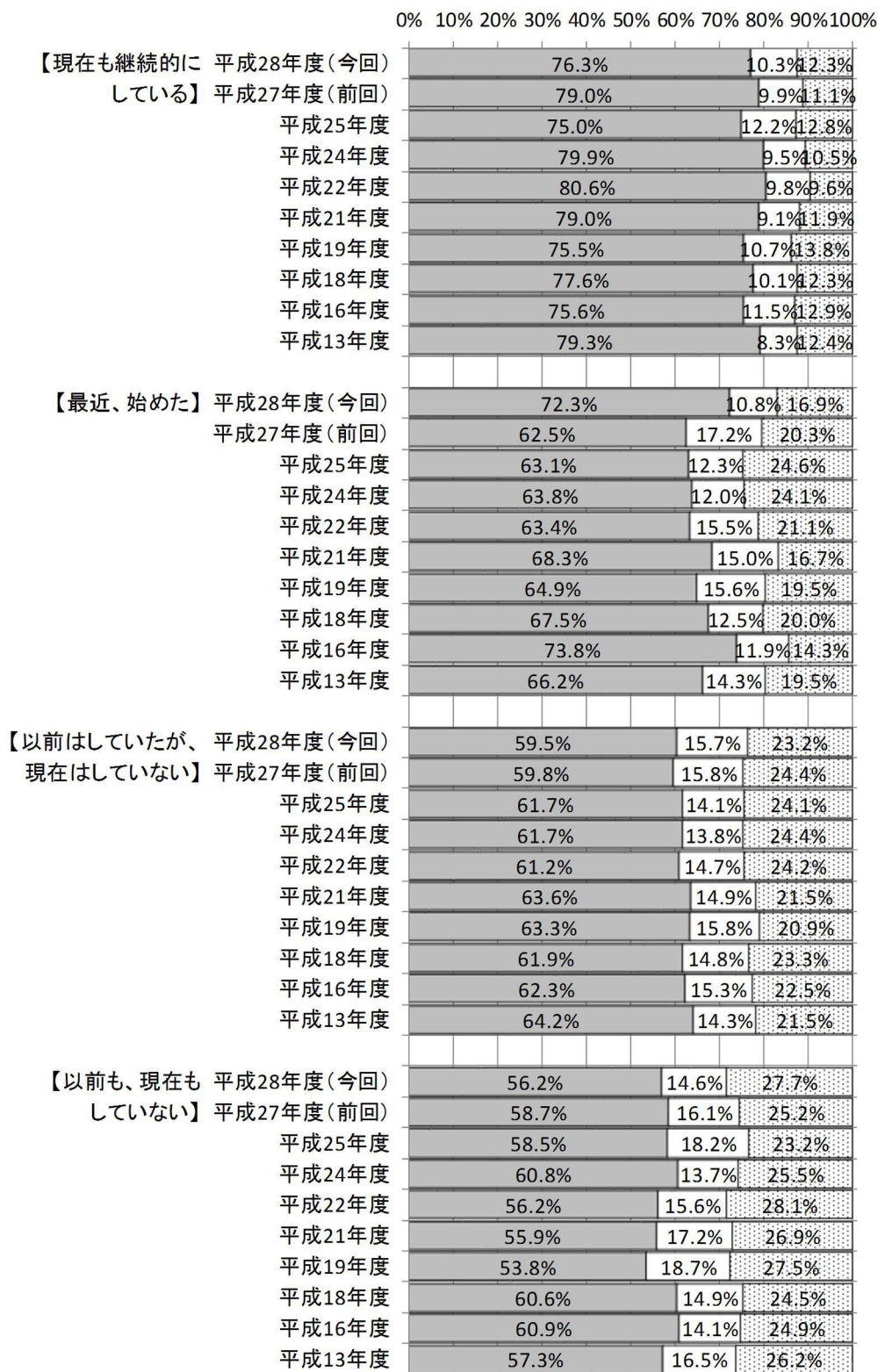
【健康感×年齢】



- “非常に健康だと思う”と“健康なほうだと思う”の合計比率
- “どちらともいえない”の比率
- ▨ “あまり健康なほうではないと思う”と“健康でないと思う”の合計比率

スポーツの実施状況別でみると、健康であると回答している人は、現在も継続的にスポーツをしている人が76.3%であるのに対し、スポーツをしていない人は56.2%であり、スポーツを実践している人の方が健康であると感じている割合が高くなっています。

【健康感×スポーツの実施状況】



- “非常に健康だと思う”と“健康なほうだと思う”の合計比率
- “どちらともいえない”の比率
- ▨ “あまり健康なほうではないと思う”と“健康でないと思う”の合計比率

指標

多様な世代と交流する機会のある人の割合

(1) 指標の説明

生きがいを持って暮らせるように、多様な世代と交流する機会のある人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「地域・態度(評価)」

Q18-ソ あなたが松戸市で生活する中で、次のことについてどの程度満足しているかについて、次のア～チの各項目ごとに、あなたの考えに最も近い番号それぞれ1つに○をつけてください。

項目	十分満足している	まあまあ満足している	普通である	やや不満である	きわめて不満である	わからない
ソ 多様な世代との交流	1	2	3	4	5	6

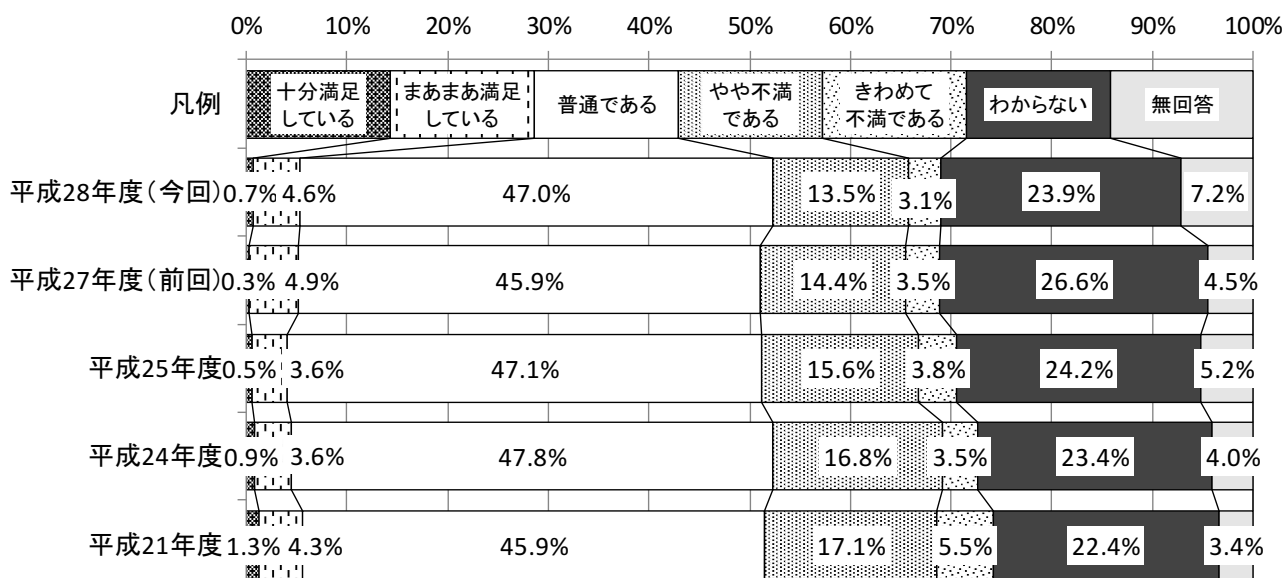
(3) 指標の現状

	平成21年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度
十分満足している	1.3%	0.9%	0.5%	0.3%	0.7%
まあまあ満足している	4.3%	3.6%	3.6%	4.9%	4.6%
計	5.6%	4.5%	4.1%	5.2%	5.3%

(4) 指標の分析

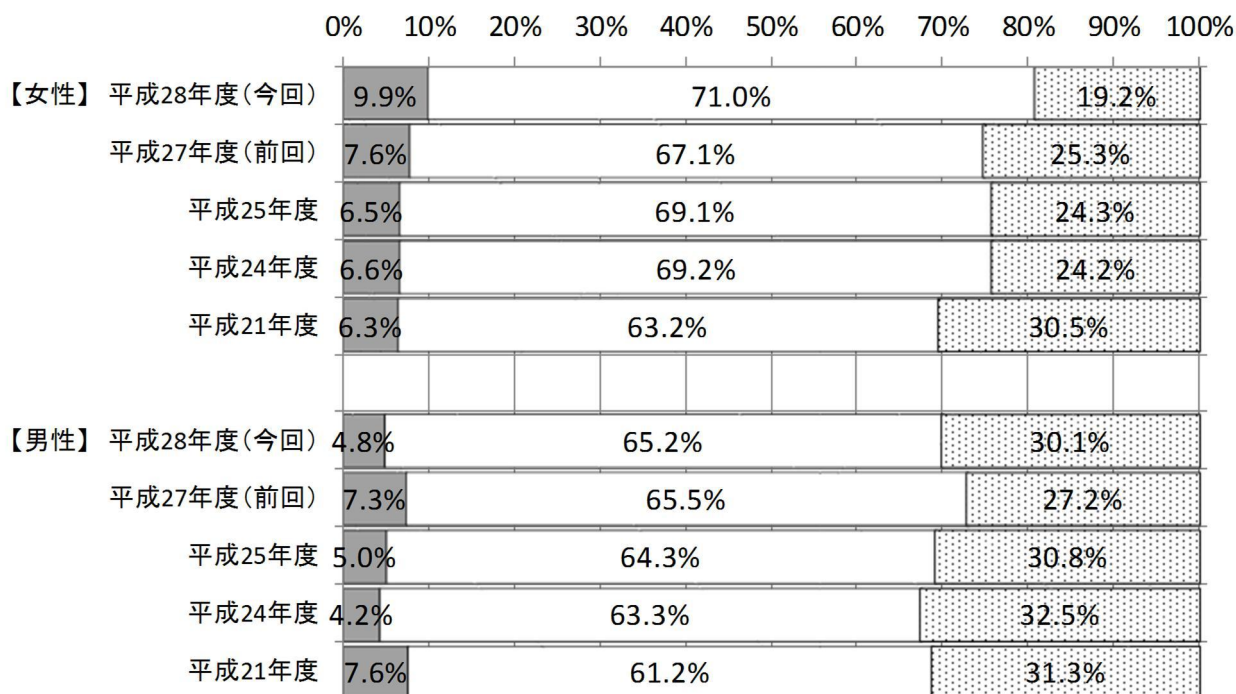
☆多様な世代との交流への満足度は前回調査と同様に1割未満

多様な世代との交流についての満足度は、5.3%であり、1割を下回っています。前回調査の5.2%から0.1ポイントの増加となっています。



性別でみると、“男性”が4.8%、“女性”が9.9%であり、多様な世代との交流に“満足している”という回答の割合は、“女性”が“男性”の2倍近い水準となっています。

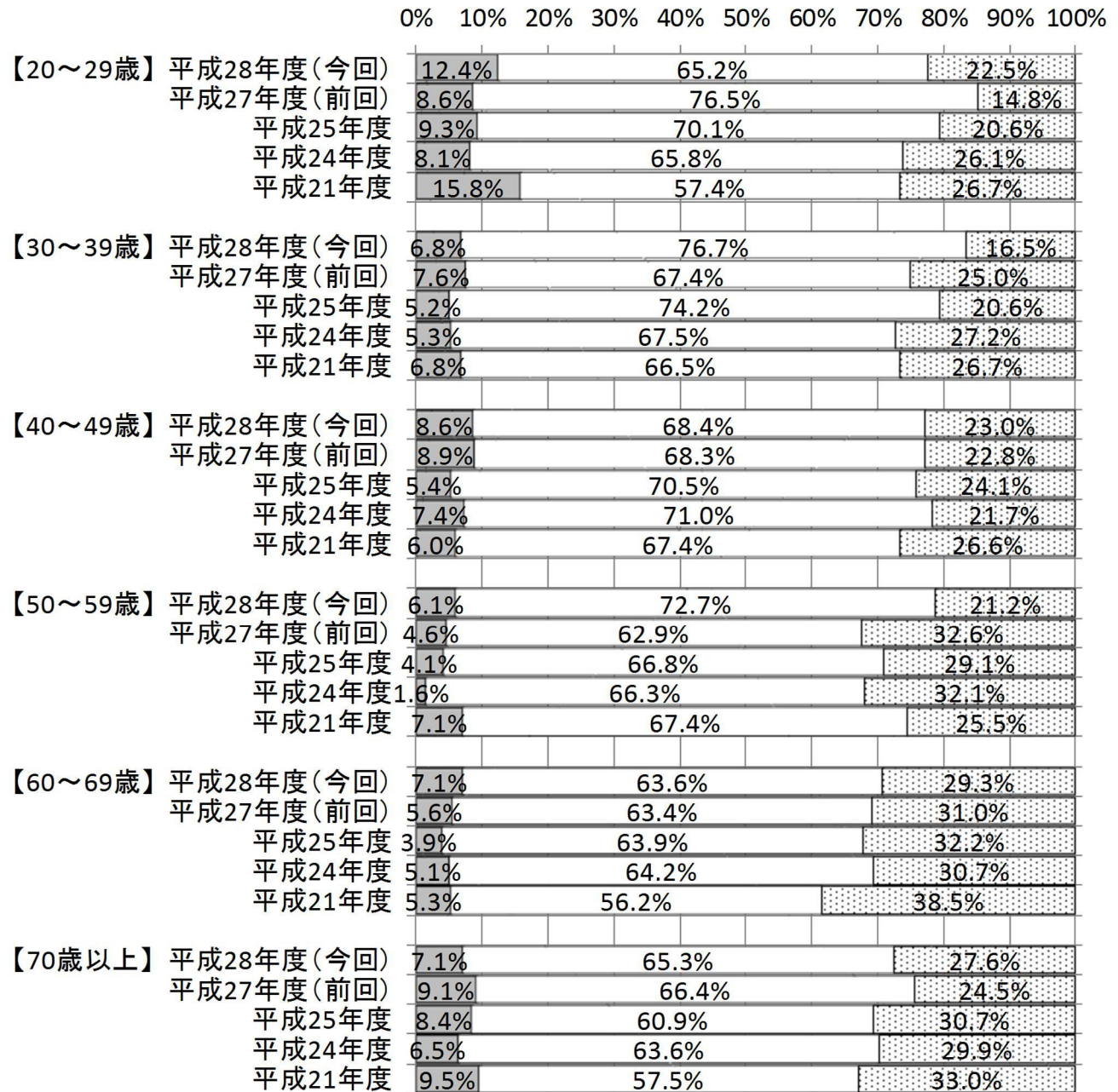
【多様な世代との交流×性別】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率

年齢別にみると、“20～29歳”12.4%であり、前回調査より3.8ポイントの増加となっています。この他、“50～59歳”（6.1%）、“60～69歳”（7.1%）が前回調査より“満足している”人の割合が増えています。

【多様な世代との交流×年齢】



- “十分満足している”と“まあまあ満足している”の合計比率
- “普通である”の比率
- ▨ “やや不満である”と“きわめて不満である”の合計比率